

小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント

■ 今回の改訂の基本的な考え方

子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成。
子供たちに求められている資質・能力とは何かを社会と共有，
「社会に関かれた教育課程」を重視。

知識・技能の習得と思考力，判断力，表現力等の育成バランスを
重視した上で，
知識の質をさらに高め，確かな学力を育成。

先行する特別教科化など
道徳の充実や体験活動の重視，体育・健康に関する指導の充実により，
豊かな心や健やかな体の育成。

■ 知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」

知・徳・体にわたる「生きる力」を育むため
「何のために学ぶのか」学習意義の共有

授業の創意工夫，教科書等の教材の改善を引き出すよう
全ての教科等を3つの柱で再整理。

- ① 知識及び技能
- ② 思考力，判断力，表現力等
- ③ 学に向かう力，人間性等

■ 教科内容の主な改善事項

- ❖ 言語能力の確実な育成
- ❖ 理数教育の充実
- ❖ 伝統や文化に関する教育の充実
- ❖ 道徳教育の充実
- ❖ 体験活動の充実
- ❖ 外国語教育の充実

■ その他重要事項

- ◇ 初等中等教育の一貫した学びの充実
- ◇ 主権者教育，消費者教育，防災・安全教室などの充実
- ◇ 情報活用能力
(プログラミング教育を含む)
- ◇ 部活動
- ◇ 子供たちの発達の支援
(障害，日本語の能力等に応じた指導，不登校等)